

# 明倫館だより

第44号  
平成17年8月1日発行  
発行人 井上晴雄  
財団法人 南豫奨学会  
南豫明倫館  
〒184-8586  
小金井市中町 4-18-26  
TEL 042-383-9835(代)

風鈴や  
母子の旅の  
急がざり  
善家 二三三  
飛魚の  
そびらに佐田の  
岬かな  
高田 誠司  
〔獅子唐句会〕

## 精鋭十二人 胸はずませ入寮!



平成十七年度南豫明倫館入寮生  
(氏名、大学学部名、出身地、一、自己紹介、二、将来の抱負)

一 結構みんなより年をとっています。同じ年だと思って接して下さい。よろしくお願ひします。  
二 四年で大学を卒業していければ院に行つて物理を研究する職業につきたい。

二宮 佳久(専修大学・商学部、西予市)  
一 宇和島東高校出身の二宮佳久です。スポーツが好きなので勉学とスポーツの両立をはかりたいと思います。  
二 私は将来公認会計士になりたいと考えてます。学校の授業で専門的知識を身につけ、資格取得に努めたいと思います。

中山 慶太(東京理科大学・理学部、鬼北町)  
一 宇和島東高校出身の中山です。大学には運で入れたようなもので、これからしっかりと勉強していきます。誕生日は七月二十一日です。  
二 将来は地元愛媛に戻つて教師(公務員)として働きたいと考えています。

阿部 伸泰(国士館大学・体育学部、宇和島市)  
一 スポーツ好きの阿部です。アメフト部の体験入部で人生を間違ひかけました。今はルールも知らないラグロス部でマッスル中です。  
二 大学で救急救命士と体育教師の免許がとれるはずなので、それを生かしてスポーツ医療関係の職に就きたいです。

清水 信策(国士館大学・体育学部、宇和島市)  
一 宇和島東高校出身です。大学では、友達をたくさんつくり楽しみたいと思います。とにかくスポーツが好きです。よろしくお願ひします。  
二 将来は救急救命士を目指しています。大学では適した人材になれるように、日々努力をして

がんばつていきたいです。

中野 敏彦(明治大学・理工学部、宇和島市)  
一 サッカーが大好きです。大学ではサッカー部に入ろうと思っています。これからよろしくお願ひします。  
二 将来、ハイブリットカーなどの環境に良い車の開発に携わりたいと思っています。また、大学生としての自覚をもって行動していきたいと思っています。

藤川 淳平(専修大学・商学部、宇和島市)  
一 宇和島東高等学校出身の藤川です。スポーツ(体を動かすこと)が好きです。毎日マイペースで楽しく生活しています。よろしくお願ひします。  
二 教員になることが昔からの夢です。そして母校で先生をしたいです。また、尊敬される人になりたいと思っています。

山口 哲生(専修大学・経営学部、宇和島市)  
一 大学生活では様々なことを経験し、りっぱな社会人になりたいと思います。  
二 四年間で、勉学に励み、自分が一番やりたいことは何なのかを考えて悔いのないように決めたいと思っています。

上田 陽平(成蹊大学・理工学部、宇和島市)  
一 趣味は釣りと音楽鑑賞です。大学ではいろいろなことを学びたいです。  
二 自分は自然が好きなので、将来は環境問題に関わつた仕事につきたいです。

松下 祐樹(中央大学・商学部、松山市)  
一 オロオロする癖があります。中学・高校とソフトボールをやっていました。下手です。TVでの競馬観戦が好きです。  
二 大学では一年目から積極的に資格を取り最終的には公認会計士を目指したいと考えています。

和多 慶祐(帝京大学・文学部(二年)、宇和島市)

一 宇和島東高校出身です。サッカーが好きなので、みんなで楽しく、サッカーをやれたらいいと思います。よろしくお願ひします。  
二 将来は、教員になりたいと思っています。教員になるのはかなり難しいですが、なれるようにしっかりと勉強していきたいと思っています。

西村 創太(東京大学・農学生命科学研究科(大学院)、八幡浜市)  
一 今年から明倫館でお世話になります。大学に入って初めての共同生活なので楽しみです。よろしくお願ひします。趣味はバスケットと音楽です。  
二 大学院では、木造建築の勉強をしています。将来は、設計やエンジニアの道に進みたいと思っています。

### 成長の場としての明倫館

自治委員長 友澤 孝規  
東京大学工学部(三年)

今期、伝統ある明倫館の委員長を努めさせていただくことになり、非常に光栄に感じています。学生時代は、良くも悪くも、まわりの環境に影響を受けやすい時期です。そのため学生時代、生活を営む明倫館という立場からの影響は、非常に大きいと感じます。

だからこそ自分は、明倫館を、皆がいい影響を受ける成長の場にしていきたいと思っています。バックグラウンドの異なる者同士、日常生活や、寮祭を通じて交流をし、お互い切磋琢磨しあい、先輩は先輩に礼儀をつくり、先輩が後輩の模範となるような風土が生まれるよう、努力していきたいです。そのような明倫館を形作るために、他の委員会のメンバーと協力しあい、より一層、明倫館を盛り立てていきたいと思っています。

### 平成17年度行事予定

(8月末までは実績)

#### 平成17年

- 4月 1日 平成17年度新入寮生(12人)入寮
- 2日 寮室壁紙・ドア鍵・ブラインド取替
- 3日 学生親睦会開催
- 9日 学生自治会開催
- 17日 学生新入寮生歓迎会開催
- 24日 第1回常務理事会開催・新入寮生歓迎会
- 29日 上田陽平君(1年生)急性アルコール中毒にて救急搬送
- 5月 3日 学生パーベキュー大会・フットサル発足
- 15日 支援会入会促進書類600通発送  
同明倫館だより第43号発送
- 16日 植木剪定実施
- 27日 監査役会開催
- 6月 4日 平成17年度第1回理事会開催
- 6日 自治委員会開催・17年度上期委員長に友澤孝規君(東京大3年)就任
- 16日 学生懇親会開催
- 17日 学生用トイレ修理
- 7月 5日 第1回消防検査実施
- 8日 平成17年度第2回常務理事会開催  
同4年生進路相談会開催
- 8月 3日 学生富士登山実施
- 8日 夏休み開始
- 20日 夏休み終了
- 26日 4寮懇親会開催
- 10月 6日 松山評議員会・OB会開催予定
- 7日 宇和島評議員会・OB会開催予定  
18年度南豫明倫館入寮説明会開催予定
- 8日 保護者懇親会開催  
奨学生面接・高校長懇親会開催
- 11月23日 第3回常務理事会・寮祭開催予定
- 12月 2日 第4回常務理事会開催予定
- 26日 冬休み開始

#### 平成18年

- 1月 7日 冬休み終了
- 21日 平成17年度第2回理事会開催予定
- 2月10日 第1次入寮願書締切り
- 19日 卒業生歓送会・第5回常務理事会開催予定
- 3月10日 第6回常務理事会開催予定
- 17日 入寮面接試験実施(於宇和島市)

#### 平成17年度 上期自治委員会

- ▷委員長 友澤 孝規(3年)
- ▷副委員長(東) 岡本 光平(3年)
- ▷副委員長(西) 西田 幸平(3年)
- ▷風 紀 二宮 泰明(2年)
- ▷会 計 友岡 清志(2年)
- ▷企 画 谷 雄介(2年)
- ▷整 備 古谷 和崇(2年)
- ▷広 報 稲田 佑也(2年)
- ▷情 報 友澤 孝規(3年)
- 岡本 光平(3年)

# 脱！日本「中国奮闘記」

古谷 和崇  
（専修大学 商学部 二年）

三月十一日、成田空港に帰ってきた私は、雨が降っているのに気づき、長いようで短かった中国での出来事を思い出しながら、日本に帰ってきたことを嘔み締めた。

目の前に冬休みを控える十二月中旬。サークルの先輩に「北京大学へ留学するか」と誘われた。今の「時世、留学は当たり前のようになり、中国は目覚ましい発展を続けている。さらに、北京大学といえば、中国の東大である。これは行くしかないだろ」ということで、留学を決意。あとは期日を待つだけ……のはずだった。そもそも、この留学プログラムは学校指定のものではない。その先輩が、自ら中国へ行って話を持ってきたという、なんとも怪しげな留学なのである。そんな留学がトントン拍子に運ぶわけも無く、人数が集まらないということで、北京大学への留学は中止。企画倒れかと思われた矢先、とりあえ

## 財団法人南豫奨学会

### 「奨学金支援会」だより

御礼並びにさらなる御支援を！

財団法人南豫奨学会

奨学金支援会会長 伊達 宗禮

平成一七年度、奨学金支援会の募金状況は左記のとおり。七月一日現在で二五〇万円に達しております。各界皆様方の厚い御支援に感謝申し上げますと共に、目標とする三百万円にあと一息の状況です。引き続きしつこく御芳志を賜わりたく、よろしくお願ひ申し上げます。郵便振込番号 〇一五〇一―一―九六五―三三

名義 「財団法人南豫奨学会奨学委員会」  
委員長 松本 三郎

平成17年度支援会申込並び入金状況  
(平成17年7月15日現在)

	申込者数(人)	払込金額(円)
理事・監事他	16	470,000
評議員	36	690,000
OB	41	560,000
現父兄	23	260,000
一般	25	310,000
法人	3	150,000
市町村	2	60,000
合計	146	2,500,000

ず中国には行けるとのこと。私は続行を表明。時は流れ、二月十一日。私はパキスタン航空に乗り込んで、北京空港へと飛び立つ。

機内にて、とりあえず九割九分は外国人。客室乗務員も然り。日本語が通じるわけも無く、トイレに行くのも、苦勞。到着間近、変な紙切れ二枚を渡される。後に知る海外必須アイテムガイドブックならぬ物を所持していなかった私は、英語と中国語で書かれた紙に悪戦苦闘。偶然にも隣にいた日本人カップルに助けを求めた。ここにて日本人の優しさを垣間見た。一方で、空席を利用して横になる外国人の図々しさも目の当たりにした。

北京空港は文字が読めないせい、余計に広く感じた。ここでは、荷物が無いという事件に遭遇する。聞こうにも、中国語を話せない私は足止めを食らった。ここでも、先ほどの日本人に助けを求めた。待ち合わせた時間に遅れてしまいい、待っていてくれた先輩は凄く心配したそう。ここまでの話も程ほどに、タクシーに乗り込み、中国での我が城、五道口、華清嘉園に向かう。

ここは、近くに清華 語言 北京大学があり、学生にとっては申し分ない環境である。私は二十号樓最上階に住む中国人家庭とともに生活を共にした。家族は反日って何？と思えるほどやさしく、中国語の勉強だって協力してもらった。着いたその日、羊肉のシヤブシヤブを頂き、次から次に出てくる肉達に、「無限なのか？」と思ってしまうほどであった。中国での食事は大勢で行うもの、故に一皿がでかいのである。酒を飲みながらみんなワイワイする食事は大変楽しいもの。

初めて本場の中国料理を食べた次の日は、下痢も下痢、週間近く続いた。北京といえは北京ダックというところで、その第一人者の店に食べに行った。普通の小汚い店とは違い、回転扉、綺麗な制服を着たウエイトルス、行き届いた清掃。中国では基本三百円ぐらいでお腹いっぱいだが、さすがは世界一、安いもので三千円はくだらなかつた。中国語勉強のため、月から金まで語学塾に通い、家庭教師もつけた。塾の先生は可愛らしく、勉強にも身が入る。塾の先生は、日本語は超える。さらに生活言語が中国語であるため、日々が勉強であった。海外に来て、日本語の弱さと英語の強さを実感した。授業はすべて中国語で行われる。最初は、先生がなにを言っているかさっぱり分からなかつたが、帰る頃には、内容もほぼ理解できるまでになり、頑張ったかいはあった。クラスメイトに日本人は私ぐらいで、ほとんどが韓国人、欧米人もチラホラ。その環境は日本人同士でつるむ事も無く、外国人の友達もできて、語学も学べて幸せだった。にしても、初めて声をかけた時は、恐ろしく緊張したものだ。辞書を片手に、ボディーランゲージも駆使して四苦八苦しながら会話する。思いを言葉で伝えることの難しさを改めて実感。私の苗字は中国語で「グー」と発音する。そのお陰もあって、クラスでは人気者、名前もすぐ覚えてもらってラッキーだった。

いろんなところへ観光にも行った。天安門、頤和園でもやっぱり中国といえば、万里の長城である。長城へ行く途中、造りかけのデザインーランドを発見。しかも工事は中止。あんなばかデカイ物をポイッと捨てているあたり、中国大陸の広さは明白。長城は鋭くとがった山、どこまでも続く道、何度も踏まれ凹んでしまっている階段、上から見下ろす景色。なにを見ても、その偉大さは計り知れない。中国の東大、北京大学にも行ってみたい。迷子も続出しそうなほど広い敷地、ここで珍しいものを発見。なんと地面に、なにやら数式らしい文字が書かれている。こんなところでも勉強しているのかと、驚きと共に感動を覚えた。湖では、スケート屋がここぞとばかりに商売をしている。そんな中、ここ北京大学で頑張る日本人本科生が結構いる。日本を離れ勉強している彼らはとても逞しく見えた。

中国にきて気づくこと、まずトイレに紙は無く、拭いたあとは流さず置いてあるゴミ箱へ。扉に穴が開いていたり、無かつたりする。初めに言われる値段の半分ぐらいに値下げが出来たりする。商売に対しては貪欲。朝外に出ると、大勢で音に合わせて太極拳をしていたり、子供たちは元気に遊んでいたりする。

帰国前、クラスメイトや家族の方にいろいろ祝ってもらってすぐくうれしかった。機会があればまた行きたいと思う。

北京では雨ではなく、よく雪が降った。帰国の数日後、中国で反日デモが起こった。中国人に反日感情が無いわけではない。しかし、中国が高度経済成長にある現在、そのような感情を持つ人はほとんど見られない。むしろ、日本の企業が入ってきて、喜んでる中国人の方が多いくらいだ。実際、単価の高い日本料理を好んで食べにくる中国人は多かつたし、電化製品も日本の物は丈夫で高品質と評判が高く愛用者も多い。たとえ中国人が日本を嫌いだとしても、日本

人が中国を嫌いになる必要はない。そんなことしてたら、物事は良い様には進まない。すねたら損とはこういうことだ。

反日に関連して、中国の愛国教育というものがある。日本の負のイメージをうえつけ、排除するという愛国主義が良いとは思えないが、自国を愛し、誇りを持つというのは日本も見習うべきところではないだろうか。

## 第三回 富士登山記

藤川 淳平 専修大学商学部二年



僕は富士山に登るのは初めてで、興味があつて行くことにした。山本(弘幸)さんと竹田さんがリーダーで計画が進み、四年生二人、二年生八人、二年生は僕一人の計十一人で当日はそれぞれ自分でおにぎりを作つて出発した。

バスで向かっている途中で富士山が見え始め「今からこれを登るんだ」とわくわくした。五合目に到着するとやはり肌寒く、少し酸素も薄いような気がした。杖を購入して、松屋の豚飯を食べ、防寒着に着替え準備を整え、しばらくしてみんなで行き始めると赤松さんと山本(和弘)さんがどんどん進んでいき見えなくなりました。七合目に到着し、写真を撮つたり杖に焼印をいれたりし、このあたりになると少し疲れ始めてきた。先に進んでいた山本(和弘)さんが赤松さんと離れて行方不明になったのである。先輩達が電話をしてもつながらず、話合の結果進むことにしたが、次の休憩場に山本さんがいびきをみながら八合目あたりになると酸素も薄く軽い高山病になっている人もいた。登っている途中空を見上げるとほんとにたくさんの星がみえ、休憩をして星を見ていると何個も流れ星が見え感動した。登り続けやると頂上にたどり着いたときははうれい半分腹がぺこぺこで、そこで食べた八百円もする高いラーメンは疲れていて寒かつたのでおいしく感じた。それから日の出

在寮生学校別一覧

出身高校	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	計			
松山																																
山北																																
伊予																																
八幡																																
宇和島																																
宇和島南																																
南宇和																																
北宇和																																
新田																																
美光																																
愛光																																
奈良高専																																
計	3	1	1	1	2	2	1	1	3	1	8	1	6	1	1	1	4	1	1	1	1	1	3	2	3	1	1	2	1	55		

## 編集後記

奨学金支援会の資金による「奨学生第一号」が決定しました。宇和島東高校数学科出身で東京理科大学理学部に進学した中山慶太郎君です。将来は母校で教鞭を取りたいとの事皆様のご支援に感謝いたします。

行事予定表にも記したように、十月に松山・宇和島両地区で多くの行事を予定しております。保護者懇親会も十月八日(土)ですので多数ご参加ください。